

科名

外科

対象疾患名 胃癌

プロトコール名 オブジーボ+mFOLFOX6(アロカリス併用)

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	2	...	14
1	CVポート	メイン3-①	生食	250mL	ルートキープ 残破棄可	↓			
2	CVポート	側管①	オブジーボ	240mg	30分かけて	↓			
			生食	100mL	投与前後生食フラッシュ				
3	CVポート	側管③	パロノセトロンバッグ	0.75mg	30分かけて	↓			
			アロカリス	235mg					
			ファモチジン	20mg					
			ネオレスタール	10mg					
			デキサート	4.95mg					
4	CVポート	メイン3-②	レボホリナート注	200mg/m ²	2時間かけて	↓			
			5%ブドウ糖液	250mL					
5	CVポート	側管④	オキサリプラチン注	85mg/m ²	2時間かけて	↓			
			5%ブドウ糖液	250mL					
6	CVポート	側管⑤	フルオロウラシル注	400mg/m ²	急速静注	↓			
			5%ブドウ糖液	50mL	3～5分				
7	CVポート	メイン3-③	フルオロウラシル注	2400mg/m ²	46時間持続静注				
			生理食塩液	mL※	バクスターインフューザーSV2.5	→			

※生理食塩液の量は5-FUの量により決定する。

1クール=14日

～MEMO～

催吐レベル3(30%以上90%未満)

day2～4にデカドロン1回4mgを1日2回朝、昼食後に内服。(8mg/day)

<オブジーボ>

本剤作用機序により、過度の免疫反応による副作用が現れることがある。発現した事象に応じた専門医と連携すること。

特に注意を要する副作用:間質性肺疾患、大腸炎、重度の下痢、肝炎、神経障害、副腎障害、重度の皮膚障害
infusion reaction、重症筋無力症、筋炎、1型糖尿病、甲状腺機能障害、腎障害、脳炎、静脈血栓症
インラインフィルター(0.2または0.22ミクロン)を使用し、投与前後に生食でフラッシュする。生ワクチン、弱毒生ワクチン、不活化ワクチンとの併用により本剤のT細胞活性化作用による過度の免疫反応が
起こる恐れがあるので併用には注意すること。

<オキサリプラチン>

・必ず5%ブドウ糖液で希釈。(薬効がおちる。)

・アレルギー反応は他の薬剤と出現形態が違うので注意する。

(現在は4～16クール目、投与30分経過後に出現することが多いと報告されている。2007.10)

・デキサートは6.6、9.9、13.2、19.8mgで選択可。